

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200047	
法人名	株式会社 高木建材	
事業所名	グループホームほぶら	
所在地	山梨県富士吉田市中曽根1-8-25	
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年3月1日 (月曜日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個人の尊厳に立脚した自立支援。</p> <p>弊社基本理念である、「目配り・気配り・心配り」を、「口を出さない・手を出さない・見逃さない」を実践し、利用者の残された能力の維持向上に努め、支援を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は大型店舗や馴染みの商店が点在する住宅地の一角にある。敷地内にはデイサービスが併設されている。事業者は木造平屋建ての2ユニットで、玄関を入ると木の温もりが感じられ綺麗に整頓され心安らく雰囲気を感じ出している。入居者は共有スペースのウッドデッキから自由に庭に出ることが出来、花の水やり・ベンチに腰掛け話をしたり外気浴を楽しんだりしている。共有スペースには3台の加湿器と空気清浄機・ファンが回っている。吹き抜けで光が差し込みとても明るい環境の中で職員は基本理念を念頭に置き、入居者が住み慣れた地域で、また、家庭的な雰囲気の中で自分らしく生活を継続出来るよう入居者の心に寄り添った支援を心掛けている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように(コロナ禍以前) 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	理念を常に目にし、意識するように玄関・職員の休憩室・タイムカードの所・フロアーに提示している。悩んだ時は理念に立ち戻り振り返るように周知している。職員は入居者それぞれその時々思いに寄り添った声掛けを日常的に行っている。また、職員同志の意思疎通を図り、入居者の心に寄り添うケアを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加しているが、現在はコロナ禍のため自粛している。	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加しているが、現在はコロナ禍のため自粛している。	自治会に加入している。地域の行事の情報は入ってくるが、コロナ禍で全く参加出来ない。幼稚園児が散歩途中の休憩所としてホームの庭に立ち寄る。入居者は窓越しに手を振ったり声掛けを行ないとも嬉しそうにしている。マスクをして少人数での散歩も行ない近隣の方と挨拶を交わすこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加したり、地域住民が気軽に参加していただけるイベント(夏祭り等)を開催し、地域交流の中で貢献しているが、現在はコロナ禍のため自粛している。	積極的に地域行事に参加したり、地域住民が気軽に参加していただけるイベント(夏祭り等)を開催し、地域交流の中で貢献しているが、現在はコロナ禍のため自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている運営推進会議でいただいた意見及び課題と評価を施設内でも分析し、利用者へのサービス向上に努めている。	定期的に行っている運営推進会議でいただいた意見及び課題と評価を施設内でも分析し、利用者へのサービス向上に努めている。	運営推進会議は今年の3月以降は行ってない。地域の方との交流も出ていない。家族とは電話・メール・手紙を出す・ぽぷら通信を送る等し、意見や感想を聞いている。家族からは何時頃から面会出来るかなどの問い合わせがあり、窓越し面会に繋がった。家族からの手紙はそれぞれの入居者に職員が読んであげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	地域包括支援センターと市とは電話やメールで連絡を取り合っている。市からは体調の悪い方はいないか、マスクや消毒液が不足していないか等の連絡があった。今までのような顔を合わせた連携は出来てないが、いつでも相談できる体制は整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。また、3か月に1回全職員対象で身体拘束対策委員会を開催し、ケアに役立てている。	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。また、3か月に1回全職員対象で身体拘束対策委員会を開催し、ケアに役立てている。	3か月に1回、身体拘束委員会を開催し、現実にあるような事例について「これってどうなの」と職員から意見を出し合ってもらい考える研修を繰り返し行っている。スピーチロックについても同様であり、職員は「身体拘束・スピーチロック」の理解は出来ており、日常生活の中で身体拘束をしないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内通信及び研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。	社内通信及び研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーを中心として、研修参加他必要に応じて関係者と話し合い、権利擁護を全職員で理解し、活用時は支援に努めている。	ケアマネージャーを中心として、研修参加他必要に応じて関係者と話し合い、権利擁護を全職員で理解し、活用時は支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて話し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。	契約時は時間をかけて話し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	電話・メール・月1回のお便り送付時等に入居者の日常の様子を知らせ、その時に家族の意見や要望を聞いている。コロナ禍で面会出来ていないことへの家族の心配解消に向けベランダから窓越しで面会を行ない、窓越しでも様子が分かると喜ばれている。また、話しやすい雰囲気作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケーススタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っている。	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケーススタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っている。	職員自由記載ノートに布団からの立ち上がり困難な入居者の為の据え置き用すり設置の提案事項が記載されており、スタッフ会議で検討されすぐ購入設置された。また、職員間の疑問等は随時、業務主任・ケアマネジャー等に相談できる環境にあり、スムーズに解決出来ている。研修への参加希望も100%聞き入れサービスの質向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境構築を第一に、職員の勤務状況及び日々努力等を把握しつつ、安心して働ける規則作り等、職員のやりがいにつなげるよう、制度改革に着手している。	働きやすい職場環境構築を第一に、職員の勤務状況及び日々努力等を把握しつつ、安心して働ける規則作り等、職員のやりがいにつなげるよう、制度改革に着手している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の人生の来歴を把握及び理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者本人の人生の来歴を把握及び理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービスを導入している。	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のペースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行動する機会を提供している。	利用者のペースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行動する機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡のやり取りをするほか、コロナ禍でも窓越し面会等、面会をしやすい環境を整えるなど支援をしている。また、外出なども自由に行えるようにしている。	定期的な連絡のやり取りをするほか、コロナ禍でも窓越し面会等、面会をしやすい環境を整えるなど支援をしている。また、外出なども自由に行えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方とお話をされたりしている。	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかったご近所の方とお話をされたりしている。	入居時、本人・家族から聞き取り個人記録に記載してあり把握は出来ている。コロナ禍で今までの様に外出出来ないが本人の希望に沿って車で自宅を見に行く、馴染みの場所に行く等を行ない、車の窓越しに知人と話をする機会もある。また、知人・友人との手紙のやり取りを楽しんでいる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段様子観察から、リビングの席決めに配慮したり、利用者の間に職員が入ったりして、利用者同士の関係性を築ける様支援している。	普段様子観察から、リビングの席決めに配慮したり、利用者の間に職員が入ったりして、利用者同士の関係性を築ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用いただいた皆様から、謝礼と合わせて差し入れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職員とされたり良い関係性を継続するよう努めている。また、入院時には、医療関係者と情報提供しながら、ご家族の相談に応じている。	利用いただいた皆様から、謝礼と合わせて差し入れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職員とされたり良い関係性を継続するよう努めている。また、入院時には、医療関係者と情報提供しながら、ご家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは個別に、その方の思いや希望を把握し、ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニングし、実践している。	スタッフは個別に、その方の思いや希望を把握し、ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニングし、実践している。	スタッフが1対1でゆっくりコミュニケーションすることで、入居者がその時々思いを語ってくれたことの中から気持ちを組み取る努力を行なっている。希望が言えない入居者であっても反応や表情からどんな小さなことも見逃さない「目配り・気配り・心配り」で本人本位のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の中でも情報を得て反映するよう努め、その情報をスタッフの中で共有している。	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の中でも情報を得て反映するよう努め、その情報をスタッフの中で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集し共有している。	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員各々が感じた課題やケアのあり方を、スタッフケア会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意見をまとめながら計画を作成している。	職員各々が感じた課題やケアのあり方を、スタッフケア会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意見をまとめながら計画を作成している。	入居前にケアマネジャーが本人・家族・これまでのケアマネジャーから情報を収集、入居判定委員会で決定している。入居後1か月を目途にカンファレンスを行ない暫定プランを作成、1~2か月を目途にモニタリングし、家族の意見も含めた実情に沿った本プランを作成し6か月ごとに見直している。状況が変化した場合も都度見直し実情に沿ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有することにより、統一された支援や、介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有することにより、統一された支援や、介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況等現状を医師へ伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立てていただいている。	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況等現状を医師へ伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立てていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に、各ボランティア団体と交流ができていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っているが、現在コロナ禍のため自粛・遠慮している。	日常的に、各ボランティア団体と交流ができていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っているが、現在コロナ禍のため自粛・遠慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	全入居者が往診医対応で月2回往診。週2回2名の看護師が交代で午前中に来訪している。家族には電話で状況報告を行っていない。往診医から専門医の受診指示があり、家族・ケアマネジャー同伴で受診している。体調不良時はすぐに往診医が対応してくれる。受診結果は個人記録に記載し全職員で情報共有を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切なケアを行うよう努めている。	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切なケアを行うよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡及び情報交換を行い、退院後も安心して生活できるように病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡及び情報交換を行い、退院後も安心して生活できるように病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、現状で可能な限り、事業所として対応支援することを契約時に確実に話している。	重度化した場合については、現状で可能な限り、事業所として対応支援することを契約時に確実に話している。	見取りについては入居時に説明している。体調が変化した場合はすぐに往診依頼し、重度化は往診医が見極め、往診医・看護師・家族・管理者・ケアマネジャーで今後の事をじっくり話し合い、事業所で出来ること・出来ないことを伝え、最後は家族に決定してもらっている。職員には看取りの時点で看護師からその方に対する看取りの研修を行なってもらい取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時及び事故発生時の対応は基本的マニュアルに沿って行うよう努めている。また、全職員は応急手当及び初期対応の訓練を定期的に行い、どんな状況でも対応可能となるよう実践力を身に付けることに努めている。	緊急時及び事故発生時の対応は基本的マニュアルに沿って行うよう努めている。また、全職員は応急手当及び初期対応の訓練を定期的に行い、どんな状況でも対応可能となるよう実践力を身に付けることに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を夜勤時を想定して行っている。また、地域の方との協力体制については、民生委員及び自治会長の方々と現在考案している。	避難訓練を夜勤時を想定して行っている。また、地域の方との協力体制については、民生委員及び自治会長の方々と現在考案している。	年2回避難訓練を行ない、内1回は消防署にアドバイスや通報訓練指導をして貰っている。抜き打ちで緊急連絡網での連絡を行なったが時間がかかり過ぎ、職員で検討した結果、メールでの連絡が良いとの意見となった。近隣の方への協力依頼は出来ている。市の第2避難所となっていて、市が事業所の敷地内に大きな物置を2個設置し、備品・水・食料品等入居者・近隣の方の分まで準備してくれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使い及びプライバシー他尊厳に配慮するよう努めている。	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使い及びプライバシー他尊厳に配慮するよう努めている。	18名の入居者一人ひとりの日常生活で発する言葉や仕草・表情から理解するように努め、生活歴を大切に、それぞれに合った言葉遣いや声掛けなど、気づかった支援に努めている。全職員が介護をしてやっているという姿勢ではなく、入居者の人権を無視しない、寄り添った支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームぼぶら	外部評価	
自己	外部	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		項目	ユニット名(あんず)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合っている。	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合う。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、日々支援している。	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、日々支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	管理者とキッチンスタッフ(メイン)とで相談し献立を決めている。職員から入居者の様子を聞き取りながら、旬の食材が入ったときは献立調整を行っている。誕生日・イベント時には入居者の希望に沿って、寿し・ラーメン・ビーマンの肉詰め等、入居者に手伝ってもらい提供している。食事は職員も一緒に食べ楽しい一時と成るように努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。	食事量及び水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員がチェック後、必要に応じて仕上げ洗いを行っている。	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員がチェック後、必要に応じて仕上げ洗いを行っている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考に、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄記録を参考に、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄チェック表を基にトイレ誘導している。自己パンツ1名自立、その他の入居者はリハビリパンツにパット使用中であり、昼夜を通してオムツ使用者はいない。失禁体操や口腔ケア・足腰を動かす体操を継続し、失禁改善や自立に向けた支援に繋げている。さりげない声掛けを心掛け、失敗があった場合は職員同志話し合い検証し、失敗しないケアに繋げる支援にも努めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取していただいたり、体操も取り入れ、便秘の改善に努めている。個々によっては、内服薬の見直しもしている。	水分を多めに摂取していただいたり、体操も取り入れ、便秘の改善に努めている。個々によっては、内服薬の見直しもしている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	何時でも入浴できる準備ができており、入居者は週2~3回入浴している。入浴スタッフは全員女性であるが苦情等はない。その日の入居者の体調や気分に合わせ、スタッフ間で話し合いスムーズで安全・安心な楽しい入浴が出来るように働きかけている。季節の柚子湯・菖蒲湯・入浴剤等も楽しみの一つと成っている。

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じてその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じてその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに随時報告している。	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに随時報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもっていただいたり、趣味として好んでいる事に取り組んでいただくよう配慮している。	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもっていただいたり、趣味として好んでいる事に取り組んでいただくよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けているが、現在はコロナ禍のため、施設内で誕生日会を行っている。	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けているが、現在はコロナ禍のため、施設内で誕生日会を行っている。	今まで行っていた家族との外出は出来ていないが、毎月のイベントの他、一人ひとりから話を聞き、施設内で希望に沿える楽しみを見出すように努めている。日常的な散歩は少人数で出掛け、近隣の方と挨拶を交わす機会もある。入居者は創作品(季節の花)を紙で作りそれぞれのフロアや廊下の壁に貼り楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。	能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	広い共有空間は、吹き抜けでとても明るく開放的である。共有空間の丸柱は風格があり、事業所全体が木の温もりを感じられる空間と成っている。フロアから自由に庭に出ることができ、ベンチが2か所に設置してあり外気浴など楽しんでいる。加湿器3台・空気清浄機・床暖が設置してある。その他、天井からバスタオルを18枚掛けられる竿が下りていて、毎日4~5回職員が交換し感染予防対策にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	全室フローリングでベッド・クローゼット・レースの防火カーテン・エアコン・空気清浄機が設置してある。個々の居室には馴染みの家具や人形・ぬいぐるみ・家族写真・創作品等が飾られ、居心地よく、心安らぐ暮らしやすい居室と成っている。居室の入り口には木枠で作られた中に分かりやすく名前が書いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸と居室の戸の色分け、居室からトイレの動線、手すりの配置、ベランダから庭へと続く癒し空間の設置等、工夫をこらしている。	トイレの戸と居室の戸の色分け、居室からトイレの動線、手すりの配置、ベランダから庭へと続く癒し空間の設置等、工夫をこらしている。		